９月１２日

聖書　マルコ１０章１７～２３節

主のいつくしみを信ず

10:17 イエスが道に出て行かれると、ひとりの人が走り寄って、御前にひざまずいて、尋ねた。「尊い先生。永遠のいのちを自分のものとして受けるためには、私は何をしたらよいでしょうか。」

10:18 イエスは彼に言われた。「なぜ、わたしを『尊い』と言うのですか。尊い方は、神おひとりのほかには、だれもありません。

10:19　戒めはあなたもよく知っているはずです。『殺してはならない。姦淫してはならない。盗んではならない。偽証を立ててはならない。欺き取ってはならない。父と母を敬え。』」
　10:20　すると、その人はイエスに言った。「先生。私はそのようなことをみな、小さい時から守っております。」

10:21　イエスは彼を見つめ、その人をいつくしんで言われた。「あなたには、欠けたことが一つあります。帰って、あなたの持ち物をみな売り払い、貧しい人たちに与えなさい。そうすれば、あなたは天に宝を積むことになります。そのうえで、わたしについて来なさい。」
　10:22　すると彼は、このことばに顔を曇らせ、悲しみながら立ち去った。なぜなら、この人は多くの財産を持っていたからである。

10:23 イエスは、見回して、弟子たちに言われた。「裕福な者が神の国に入ることは、何とむずかしいことでしょう。」

創世記から、アブラハム、ロトの人生、信仰、神様からの語りかけを学んでいます。

アブラハムの信仰はローマ人への手紙４章にも引用されています。

今日はマルコ福音書からイエス様の語られた永遠のいのちのついて学んでいきます。

アブラハム、サラの夫婦には子供が与えられなかった。当時としては跡取りの子供がないということは大きな悲しみ、痛みでありました。どれだけ財を得ても、金持ち、土地の所有者になっても、子供がなければやがてそれは他人のものになる。

創世記１８章、神様とみ使いがソドムへの裁きに下って来た時、アブラハムの天幕に立ち寄られ、最後の最後、あなたの妻サラには来年の今ごろ男の子が生まれている。その時神様は「主にとって不可能なことがあるだろうか」と最後のとどめを指すようにおっしゃいました。

創世記の１２章から神様は何度も何度もアブラハムに子供が与えられる約束をされながら、不信仰になったり、頭では信じて心で信じられなかったり、不信仰の笑い、冷笑、したにもかかわらず、神様はアブラハムを赦し愛し、支え続けて下さいました。弱い疑いやすい者を赦し愛してくださる主をアブラハムは信じていました。

子供が与えられない、これは財産がない、富がないという悲哀に言い換えることもできます。アブラハムは財産がなくても富がなくても、神様を信頼し、神様との交わりを楽しみ、神様の赦しを信じて信仰の歩みをしていました。

一方ロトはというとひたすら財産を得る人生を突っ走っていました。

ベテルの近くでは牧草地をめぐってアブラハムのしもべと争っています。

アブラハムが別行動しようと提案すると

さっさと肥沃な低地、危険なソドムの近くへ引っ越していきました。

エラムの王、ケドルラオメルの侵略に遭い、
財産は奪われ、一族郎党捕縛されバビロンへ
連行されるところ、
アブラハムの命がけの救出作戦で九死に一生
を得たものの、懲りずにまたソドムの町中に戻っ
ていき、今度は本当にソドムに対する神様の裁
きに巻き込まれてしまいます。
そこまでロトには財産への執着がありました。
幼いころロトの父親、ハランが早くなくなったので
叔父のアブラハムに育てられ、貧困の悲哀が財
産への執着になったかもしれません。

創世記の記事も
財産に執着するか、神様に信頼するかが
ドラマのような形でテーマになっています。
モーセの十戒も
第一番の戒めは
あなたにはわたしのほかに他の神々があってはならない。
神様を信頼して神様以上にお金や富みに執着してはいけない、ことが第一番の戒めです。

マルコ１２章２８節から一番大切な戒めは何ですかと律法学者が訪ねています。

12:29 イエスは答えられた。「一番たいせつなのはこれです。『イスラエルよ。聞け。われらの神である主は、唯一の主である。

12:30 心を尽くし、思いを尽くし、知性を尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。』

12:31 次にはこれです。『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。』この二つより大事な命令は、ほかにありません。」

とイエス様は答えておられます。

それを聞いて律法学者は

12:32 そこで、この律法学者は、イエスに言った。「先生。そのとおりです。『主は唯一であって、そのほかに、主はない』と言われたのは、まさにそのとおりです。

12:33 また『心を尽くし、知恵を尽くし、力を尽くして主を愛し、また隣人をあなた自身のように愛する』ことは、どんな全焼のいけにえや供え物よりも、ずっとすぐれています。」

と答え、イエス様はこの男に、

12:34 イエスは、彼が賢い返事をしたのを見て、言われた。「あなたは神の国から遠くない。」と答えておられます。

しかし、神の国から遠くはない、というのは

微妙な答えです。近くにいても入れなければ益はありません。この男は神の国の近くまで来ていますが、まだ、入っていません。

このままでは問題です。

この議論の少し前にマルコ１０章で富める青年がイエス様の所に来ています。

10:17 イエスが道に出て行かれると、ひとりの人が走り寄って、御前にひざまずいて、尋ねた。「尊い先生。永遠のいのちを自分のものとして受けるためには、私は何をしたらよいでしょうか。」

イエス様はこの青年に
10:19　戒めはあなたもよく知っているはずです。『殺してはならない。姦淫してはならない。盗んではならない。偽証を立ててはならない。欺き取ってはならない。父と母を敬え。』」
10:20　すると、その人はイエスに言った。「先生。私はそのようなことをみな、小さい時から守っております。」

青年は胸をたたいて律法は小さいころから守っていますと胸を張って行ったのでしょう。

この自信満々の青年にイエス様は

10:21 イエスは彼を見つめ、その人をいつくしんで言われた。「あなたには、欠けたことが一つあります。帰って、あなたの持ち物をみな売り払い、貧しい人たちに与えなさい。そうすれば、あなたは天に宝を積むことになります。そのうえで、わたしについて来なさい。」

10:22 すると彼は、このことばに顔を曇らせ、悲しみながら立ち去った。なぜなら、この人は多くの財産を持っていたからである。

この青年のどこが問題であったのでしょうか。

『殺してはならない。姦淫してはならない。盗んではならない。偽証を立ててはならない。欺き取ってはならない。父と母を敬え。』

この十戒の後半は

『あなたの隣人をあなた自身のように

愛せよ。』に集約されます。

隣人を愛するという本当の目的を離れて

律法を守ることは律法の精神から離れています。

同じテーマがルカ１０章で取り上げられています。

10:25 すると、ある律法の専門家が立ち上がり、イエスをためそうとして言った。「先生。何をしたら永遠のいのちを自分のものとして受けることができるでしょうか。」

10:26 イエスは言われた。「律法には、何と書いてありますか。あなたはどう読んでいますか。」
10:27 すると彼は答えて言った。「『心を尽くし、思いを尽くし、力を尽くし、知性を尽くして、あなたの神である主を愛せよ』、また『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ』とあります。」
10:28 イエスは言われた。「そのとおりです。それを実行しなさい。そうすれば、いのちを得ます。」

10:29 しかし彼は、自分の正しさを示そうとして
イエスに言った。「では、私の隣人とは、だれのこ
とですか。」

この後強盗に襲われた旅人に3人の人が出会っています。

祭司、レビ人は見て見ぬふりをして通り過ぎています。祭司、レビ人は律法を守っていると自負している人です。

最後にサマリヤ人が傷ついた旅人を助けて、律法を守っている証しをしています。

マルコ１０章の富める青年も、

個別には律法を守る忠実なまじめな青年でした。

しかし律法のゴールは兄弟を愛すること、

与えられた賜物、富は兄弟を愛するための手段で、富がゴールではありません。

十戒の前半の目的は

『心を尽くし、思いを尽くし、力を尽くし、知性を尽くして、あなたの神である主を愛せよ』

神様を愛することは神様と交わること、神様を人格的に霊的に知ることから始まります。

富める青年は神様を信仰的に、人格的に深く
親しく知るべきでありました。
多くの富も、社会的な地位も
神様からの贈り物、その贈り物をもって
神様の望んでいることをするべきでした。

さらにこの青年の前に立って、青年に優しく語りかけていて下さるイエス様こそ

人となってくださった神様であられます。

青年に慈しみをもって、愛をもって語って教えて下さっています。
天の栄光を捨てて、私たちの救いのために
いのちまで捨てて愛してくださっている
イエス様が前に立っています。語っていてください
ます。

あなたに欠けたことが一つあります。

おきてとしての律法は十分に守っている青年にとって、欠けたことは何でしょうか。

慈しみ深いイエス様を知ること、
富みに執着している者も
愛し慈しんでくださる神様を信じ、交わりに生きること。

アブラハムは神様が何度も何度も語られ約束されましたが

頭で信じて心で信じられないような者、

そんな弱いものも赦し、いつくしんで愛してくださる神様を信じていました。

ロトは富に執着している男でしたが、
最後の最後は、後ろを振り向かずに、
神様のことばを信じて、ソドムから脱出しました。

問題だらけのロトではありましたが、
究極の所で、富への執着よりも
神様の声に聴き従いました。

ペテロはペテロ第二の手紙でロトのことを

2:6 また、ソドムとゴモラの町を破滅に定めて灰にし、以後の不敬虔な者へのみせしめとされました。 2:7 また、無節操な者たちの好色なふるまいによって悩まされていた義人ロトを救い出されました。

義人、正しい人と紹介しています。

いつくしみ深いイエス様を信じること、
信頼すること、身をゆだねることが
義とされ、救われる道であります。

様々なものやことに執着してしまう弱い

私たちを慈しんでくださる、愛してくださる、見つめてくださる主イエス様に寄りすがりつつ新しい一週間も主とともに歩みましょう。

祈り